



2021年度 第2四半期 決算説明会資料

JT Group CFO
見浪 直博

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。

※用語の定義については、スライド16以降に記載しております。

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予期しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) 国内たばこ事業、海外たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・ニーズの変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等



**2021年度
第2四半期実績**

2021年度 第2四半期：全社実績

(億円)	2021年 1-6月	前年同期比
財務報告ベース		
売上収益	11,445	+11.1%
調整後営業利益	3,582	+24.5%
営業利益	3,221	+27.8%
四半期利益	2,252	+30.5%

為替一定調整後営業利益：前年同期比 +26.9%

- 海外たばこ事業が牽引し力強い実績
- 渡航制限に伴う一部高単価市場の内需増加影響が想定よりも長期化

売上収益

- 海外たばこ事業における数量成長・プライシング効果の貢献

調整後営業利益（財務報告ベース）・営業利益

- 好調なトップラインにより増益
- ネガティブな為替影響は限定的

四半期利益

- 金融損益の改善

注：20年Q3よりIAS第29号超インフレ会計の適用を開始したことに伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの21年実績は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースの実績は、21年Q1から特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について一定の算定方法を用いて控除しています。

国内たばこ事業：数量/財務実績

数量実績

(億本)	1-6月 総需要	1-6月 JT販売数量	1-6月 シェア
たばこTotal*	736 (▲3.3%)	330 (▲8.2%)	44.9% (▲2.4ppt)
RMC	519 (▲8.9%)	309 (▲9.5%)	59.5% (▲0.4ppt)
RRP*	217 (+13.4%)	21 (+17.7%)	9.8% (+0.4ppt)
(市場占有率*)	29.5%	—	—

* 自社推計（出荷ベース）

財務実績

(億円)	2021年 1-6月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	2,564	+3.0%
調整後営業利益	1,013	+23.8%

総需要

- RMC：趨勢減・RRP伸長影響・定改影響により減少
- RRP：昨年来継続しているコロナ禍に伴う消費者行動の変化の影響、各社による新製品の投入や販促活動を背景に伸長が継続

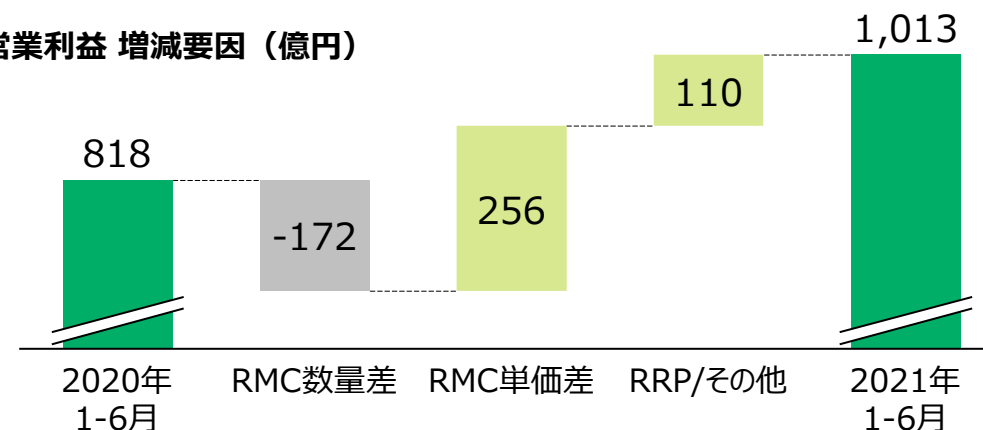
JT販売数量・シェア

- RMC：RMC総需要の減少に加え、RRP製品への移行、低価格帯での競争激化に伴うシェア減少により、数量減
- RRP：着実なシェア伸長、販売数量は計画に対しインライン

自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益

- (+) RMC単価差影響
- (+) RRP数量増
- (+) 販促費の下期集中
- (-) RMC数量差
- (-) 免税販売の減少

調整後営業利益 増減要因（億円）



Ploom Xについて



- 7月にHTS新デバイス Ploom Xを日本国内で発売
 - 7/26 CLUB JTオンラインショップで販売開始
 - 8/3 全国のPloom Shopで発売
 - 8/17 全国のコンビニエンスストア、たばこ販売店で発売
- 新技術“HEATFLOW®”による吸いごたえの強化
- デバイスの表面にボタンのない、スタイリッシュな外観が特徴
- 加熱待ち時間の短縮、使用時間の延長、IoT機能搭載
- 新デバイスに最適なブレンドのたばこスティックを合わせて発売
- ロシアで年内に投入予定

海外たばこ事業：数量/財務実績

数量実績

(億本)	2021年 1-6月	前年同期比
総販売数量	2,289	+8.0%
GFB販売数量	1,535	+12.6%

財務実績

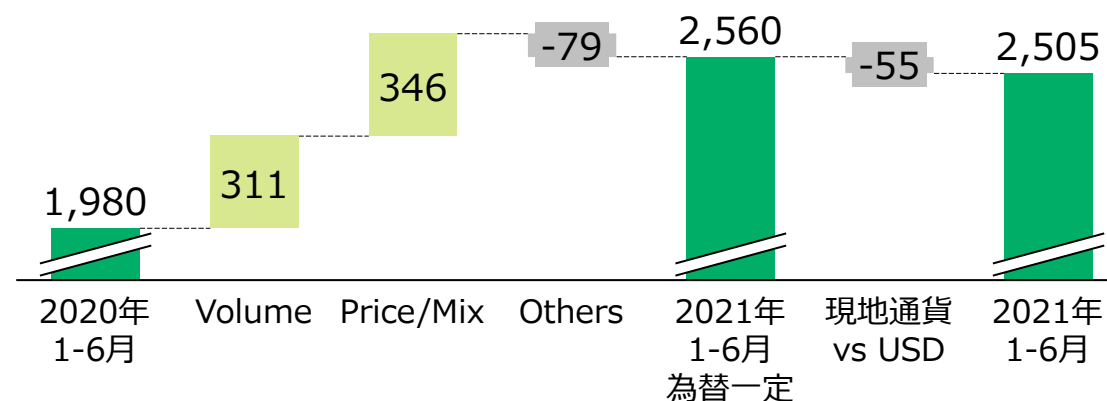
	2021年 1-6月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	7,363 億円	+17.6%
為替一定ベース	6,623 USDMM	+14.5%
調整後営業利益	2,702 億円	+26.1%
為替一定ベース	2,560 USDMM	+29.2%

トップラインパフォーマンス

- 渡航制限影響による一部高単価市場の堅調な総需要影響
- 主要市場を中心に好調なシェアモメンタムが継続
- フィリピン、ロシア、UK等における単価上昇効果

調整後営業利益 増減要因 (USD MM)

- (+) 力強いトップライン成長
- (-) RRPやデジタルイゼーション投資の増加
- (-) IRR、RUB等のネガティブな為替影響（影響幅は限定的）



注：20年Q3よりIAS第29号超インフレ会計の適用を開始したことに伴い、上記の表・グラフに記載の財務報告ベースの21年実績は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースの実績は、21年Q1から特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について一定の算定方法を用いて控除しています。また、ロードマップ上の為替影響には、従来の為替影響に加え、これらの影響も含まれます。

医薬事業・加工食品事業：財務実績

医薬事業

(億円)	2021年 1-6月	前年同期比
売上収益	371	▲0.6%
調整後営業利益	36	▲55.2%

- 売上収益：海外ロイヤリティ減少を鳥居薬品増収が一部相殺
- 調整後営業利益：導入品開発中止による除却損の計上及び鳥居薬品の減益により、減益

加工食品事業

(億円)	2021年 1-6月	前年同期比
売上収益	704	▲1.9%
調整後営業利益	15	+316.9%

- 売上収益：家庭用製品の相対的減少
(前年同期は外出自粛に伴い、一時的に増加)
 - コロナ禍影響
 - 家庭用製品は引き続き好調に推移し、コロナ禍以前の水準を上回る
 - 外食向け製品は前年比では若干回復基調にあるが、コロナ禍以前の水準には至らず
- 調整後営業利益：販管費低減により、増益



2021年度 修正見込

2021年度全社業績：修正見込

(億円)	2021年 修正見込	対当初 見込増減	前年度比
財務報告ベース			
売上収益	22,000	+1,200	+5.1%
調整後営業利益	5,170	+420	+6.2%
営業利益	4,020	+390	▲14.3%
当期利益	2,720	+320	▲12.3%
FCF	3,830	+680	▲1,209億円

**為替一定調整後営業利益：対当初見込+2.0%、前年度比+7.2%の
上方修正**

- 海外たばこ事業の貢献

売上収益

- 国内たばこ・加工食品の減収を、海外たばこの増収及び為替前提の見直しによるポジティブな影響が上回る

調整後営業利益

- 海外たばこの貢献に加え、ネガティブな為替影響が改善する見込み
- この結果、当初減益の見通しであった調整後営業利益も増益を見込む

営業利益・当期利益

- 調整後営業利益の上方修正に伴い、当初見込みより改善

FCF

- AOP増益と設備投資減により上方修正

為替前提の見直し

- 現地通貨対ドル・ドル対円いずれも改善
- 為替前提の見直しに伴い為替のネガティブ影響縮小を見込む

注：20年Q3よりIAS第29号超インフレ会計の適用を開始したことに伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について一定の算定方法を用いて控除しています。

国内たばこ事業：修正見込

数量前提の見直し

		2021年 当初見込	2021年 修正見込
	たばこTotal*	対前年で▲4%台前半	「▲3%台後半」
総需要	RMC総需要	対前年で▲8%台前半	「▲9%台前半」
	RRP市場占有率*	通年で20%台後半	「通年で約30%」
JT 販売数量	JT RMC販売数量	対前年で▲7%台後半	「▲11%弱」
	JT RRP販売数量	40億本台後半	修正なし

* 自社推計（出荷ベース）

財務見込

(億円)	2021年 修正見込	対当初 見込増減	前年度比
自社たばこ製品売上収益	5,100	▲100	▲1.1%
調整後営業利益	1,760	-	+4.7%

数量前提

- たばこ総需要、RRP市場占有率：上期の底堅い実績を反映し上方修正
- RMC総需要：想定以上のRRPカテゴリーの拡大を考慮し、下方修正
- JT RMC販売数量：お客様のRRPへの移行や低価格帯での競争激化を背景に、下方修正
- JT RRP販売数量：修正なし

自社たばこ製品売上収益

- RMC販売数量前提の見直し及び免税市場の回復遅延に伴い、100億円の下方修正

調整後営業利益

- 当初見込みから変更なし
 - Ploom Xへの集中的投資を実施しつつ、経費の効率的な執行

Topics：定価改定・葉たばこ耕作の面積調整は一定の前提に基づき、見込に織り込み済

- 定価改定
 - 10月のたばこ税増税に先立ち、本日RMC定価改定を申請
 - RRP等一部銘柄は状況見極めのため、後日申請予定
- 葉たばこ耕作の面積調整
 - 需給バランスの適正化を図るため、廃作募集を決定

海外たばこ事業：修正見込

数量前提の見直し

	2021年 当初見込	2021年 修正見込
総販売数量	対前年で 3%台半ばの減少	「対前年で横ばい」
GFB販売数量	対前年で 1%程度の減少	「対前年で 3%程度の増加」

財務見込

	2021年 修正見込		対当初 見込増減	前年度比
自社たばこ製品売上収益	13,600	億円	+1,300	+8.7%
為替一定ベース	12,100	USDMM	+250	+3.2%
調整後営業利益	3,770	億円	+450	+10.6%
為替一定ベース	3,550	USDMM	+100	+11.6%

注：20年Q3よりIAS第29号超インフレ会計の適用を開始したことに伴い、上記の表・グラフに記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について一定の算定方法を用いて控除しています。

数量前提

- 主に上期の好調な実績を反映し通期数量前提を上方修正
- 一方、下期は渡航制限の緩和による総需要減少影響を想定し、対前年で減少の見込

自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益

- 為替一定ベース（USD）：
数量前提の引き上げを反映し、上方修正
- 財務報告ベース（JPY）：
複数の現地通貨において当初見込レートよりも強めに推移すること、大幅な円安／ドル高傾向であることを織り込み上方修正

Topics

- Ploom X：ロシアで年内に投入予定
- Transformationの進捗：コスト削減効果が着実に発現

医薬事業・加工食品事業：修正見込

医薬事業

(億円)	2021年 修正見込	対当初 見込増減	前年度比
売上収益	770	+5	▲2.5%
調整後営業利益	70	-	▲59.2%

- 売上収益：当初見込を上回る海外ロイヤリティ収入の増加を織り込み上方修正
- 調整後営業利益：海外ロイヤリティ収入の増加あるも、導入品開発中止による除却損を計上し、当初見込と同水準

加工食品事業

(億円)	2021年 修正見込	対当初 見込増減	前年度比
売上収益	1,500	▲10	+0.4%
調整後営業利益	30	-	-

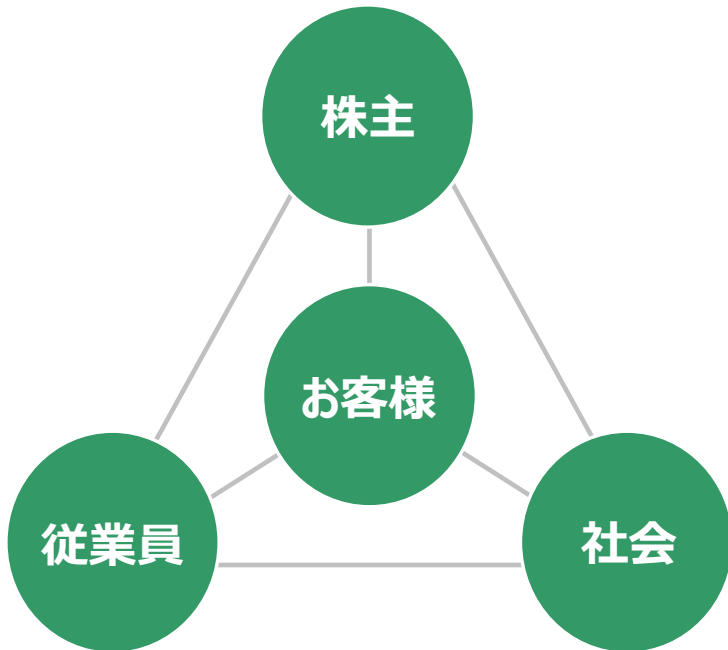
- 売上収益：緊急事態宣言等の影響を受け、冷食・常温の家庭用製品は伸長を見込むものの、外食用製品・ベーカリー事業の販売回復が当初想定よりも緩やかになることを見込み、下方修正
- 調整後営業利益：冷食・常温の販売構成の改善に加え、効率的な経費執行に取り組み、当初見込の達成を目指す



終わりに

Closing remarks

- 上期の力強い実績を反映し、通期見込を上方修正
- Ploom Xを通じた日本国内のHTSカテゴリにおけるシェア獲得に注力、さらにグローバル展開へ
- たばこ事業一本化及び日本マーケットの競争力強化の進捗状況
 - 来年以降の組織設計は完了
- 1株当たり年間配当金予想は当初の130円から変更なし
 - 中間配当は65円



<用語の定義>

調整後営業利益（AOP）：	調整後営業利益 = 営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラチャリング収益及び費用等
為替一定調整後営業利益：	海外たばこ事業における当期の調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドル、円対ドルの為替レートを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標
当期利益/四半期利益：	親会社の所有者に帰属する当期利益/四半期利益
Reduced-Risk Products (RRP)：	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品
GFB： (Global Flagship Brands)	Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド
総販売数量： (海外たばこ事業)	水たばこ/E-Vapor/製造受託を除き、Fine Cut/Cigar/Pipe/Snus/Kretek/加熱式たばこを含む
自社たばこ製品売上収益： (海外たばこ事業)	物流事業、製造受託等を除き、水たばこ、RRPの売上込み
為替一定ドルベース 自社たばこ製品売上収益/ 調整後営業利益： (海外たばこ事業)	当期の自社たばこ製品売上収益/調整後営業利益を前年同期の現地通貨対ドルの為替レートを用いて換算/算出することにより、為替影響を除いた指標

<用語の定義>

たばこ総需要：
（国内たばこ事業）

日本市場全体におけるたばこ製品の本数ベースの市場規模（自社推計）
RRPやリトルシガーを含む

RMC：
（国内たばこ事業）

Ready made cigarettesの略

RMC総需要：
（国内たばこ事業）

日本市場全体における紙巻たばこの本数ベースの市場規模（自社推計）
リトルシガーを含み、RRP等を含まない

RMC販売数量：
（国内たばこ事業）

国内免税販売中国事業の販売分を除く、JT紙巻たばこの販売本数
リトルシガーを含み、RRP等を含まない

RRP総需要：
（国内たばこ事業）

日本市場全体におけるRRPの本数ベース（1パック当たり紙巻きたばこ20本として換算）の市場規模（自社推計）
デバイス/関連アクセサリー等は含まない

RRP販売数量：
（国内たばこ事業）

国内免税販売分を除く、JTのRRPの販売本数（1パック当たり紙巻たばこ20本として換算）
デバイス/関連アクセサリー等は含まない

リトルシガー：
（国内たばこ事業）

たばこ葉を原料とする巻紙を使い、紙巻たばこと同様の形態に巻き上げた製品。
たばこ事業法上「葉巻たばこ」に分類される

自社たばこ製品売上収益：
（国内たばこ事業）

輸入たばこ配送手数料収益等を除き、国内免税販売/中国事業/RRP関連の売上を含む